

信濃西垣大

実質業務純益76%増

3月期決算 業務効率化で過去最高

大垣市恵比寿町の大垣西濃信用金庫が17日発表した

2020年3月期決算は、

本業の収益力を示す実質業

務純益が前年同期比76・4

%増の15億2100万円と

過去最高となった。業務効

率化による経費削減や手

数料収入の増加が寄与し

た。

実質業務純益では、職員

の時間外労働の削減や人員

の適正化などで経費を約5

億円圧縮したほか、手数料

収入が料金体系の見直しに

よって約6億円増えた。

純利益は15・0%減の5

億5200万円。新型コロナウイルスの感染拡大を背

景にした金融市場の混乱で

有価証券の減損処理額が増

え、売却損も発生した。将

来の財務の健全性を担保す

るために、取引先の倒産に

備えた貸倒引当金を積み増

したのも影響した。減益は

16年の合併後、4期連続と

なる。

期末貸出金残高は2・4

%増の3409億4700

万円。積極営業により事業

者向けが伸び、住宅ローン

の伸長で個人向けも増加

し過去最高を更新した。期

末預金残高は、定期性預金

が減って1・1%減の73

71億8000万円だった。

財務の健全性を示す自己

資本比率は0・16%低下の

13・20%。金融再生法ベ

ースの不良債権比率は0・59

%低下がり3・67%だった。

21年3月期予想は、新型

コロナの影響が見通せない

ため未定とした。

(古家政徳)